

保育園自己評価

聖フランシスコ保育園

保育方針	豊かな人間性をもつ子どもを育成する。 子どもが頑張って前を向くことができるよう、転んだら起き上がれるように、人に助けの手を差し伸べることができるように、自分と人の命の尊さを感じられる子どもたちを、保護者、地域の方々の意向を受け止めながら保育にあたっていく。			保育目標	～おひさまっこ～〇祈りができる子ども(人・環境に気づく子ども)〇命の存在と尊さを感じられる子ども〇生きる力を育み、転んだら起き上がる子ども	
評価項目	評価内容	前期(4月～9月)		後期(10月～3月)		
		評価	評価内容・取り組みの状況	評価	評価内容・取り組みの状況	
保育内容について	保育課程、保育方針、保育指導計画等の見直しを行っている。	A	計画は保育指針のどこにあたるのかを確認している。	A	保育計画は繋がっていることを再認識して計画を立てること	
	保育目標は全職員で検討し理解できている。	B	保育目標に合った保育内容が職員で検討している。	B	次年度を見通した内容にしていく時期になっている、全員で周知。	
	子どもの発達過程に応じた指導計画を作成し保育をしている。	A	幼児組での発達年齢にあった保育内容に検討が必要。	B	年齢にあった指導計画にならない学年もあった。	
	生きる力をもち考える保育を行う。	B	子どもたちが自分で考え、行動できる、意見が言える環境つくり。	B	自分で発信できる、言葉で伝えることができる環境作り大切にする	
	行事のねらいを明確にして計画、実施をおこなう。	A	同じ動きやプログラムをつくる傾向があるので見直しが必要。	A	年齢ごと参加方法を話し合い全体で一つの実施になるようにした。	
	障がいのある子に安定した環境を整備し対応の配慮をしている。	A	子どもたちの前で保育士は対応、言葉等見習える配慮を行う。	A	各支援施設との連携を行い保護者の方とも連携をとれた。	
	小学校との連携、就学計画に基づき保育をおこなう。	A	就学前に必要になる連絡・相談などは順序良く進めることができた	B	園児、児童の交流場が持てずに残念だった、小学校とは連絡を取り合えた	
健康・食育・安全	緊急時(事故、感染症等)の安全体制が整備されている。	A	緊急時の対応はできてきている。	A	警察署の協力を頂き不審者対応、歩行訓練など教えてもらうことができた。	
	安全確保の為に防災計画を立て定期的に訓練をしている。	A	職員によって安全性の把握度合いが違っている。	A	計画が実践できるものなのか何度も訓練をくりかえし立て直した	
	基本的生活習慣の援助と共に情報提供をおこなう。	B	お便りなどで生活習慣の見直しなどを発信することができた。	A	園だより、クラス便り、個人ノートで現況を伝えてきた。	
	食育、楽しい食事の配慮、環境の工夫をしている。	B	感染症の流行があり子どもたちへの食育を現場で行うのは難しい	B	給食室と保育室の連携を深め献立等考えてきた。	
	アレルギー、除去食、誤食防止に配慮している。	A	声をかけあって食材確認を行う。	B	特に〇歳児の食べたことがない食材等は注意をして月初めに話し合いをもつ	
	保育者からの相談、意見に適切な対応、援助を行っている。	A	保護者と子育て支援、相談に時間をつくっている。	A	園だよりにアンケート回答、ご意見を頂き保育園からの開示をおこなっている。	
	園開放を行う。(園見学の開放)	B	園見学はおこなうことができたが、園庭開放は数回しかできなかった。	B	園庭開放はおこなうことができたが交流ができなくて残念だった。	
子育て支援	計画的に園内研修を行っている。	B	行うことができた。が、実践となると難しいこともわかる。	A	研修会参加後には直ぐに職員周知ができる体制作りはおこなった。	
	自分の保育目標をもつ	B	話し合いで職員自身の考え方や意見を出し他の職員から意見をもらう。	B	保育目標に沿っての計画になっているかを確認できた。	
	自己評価を行い自分の保育の改善に努めている	A	上記の意見を参考にして改善策をだす。	A	できている。	
	全員が話し合いに参加する	B	話し合いの内容を事前に伝えていく。	B	なるべく多くの職員が発言できる話し合いを工夫してきた。(時間)	
運営・管理	職員会議を適切に行っている。	A	時間の調整が難しいが短時間で集中した会議になってきた。	B	行事のための職員会議にならないよう、保育のための職員会議に心がける。	
	守秘義務、法令の遵守、個人情報、苦情解決等適切におこなう。	A	言葉、文字、園児に対する対応はその場で気づきを伝えてきた	A	様々な事故や事件、不適切保育の情報があるたびに話し合いをおこなえた。	
	施設内外、設備、遊具の安全点検を計画的に行っている。	A	個々で視点が違うため園児にとっての危険を周知した。	A	業者の方にお願いする箇所と子ども目線での安全を重視してきた。	
評価		前 期 (4～9月)	課題、改善策	後 期 (10月～3月)	総合評価	
十分に達成されている	A		・自分の考え方を周りに発信しないことが多い、伝えあうことを再度検討していく課題がある。			・〇〇だと思ったが事故等を起こす背景にあるので必ず自分の口で、職員に報告確認をおこなった。
達成されている	B					・子ども主体の保育を提供するためにはどうしたら良いのかを職員全員で考え方伝え保育をおこなってきた。
取り組みはしているが不十分	C		・感染症が一気に流行することがあり、保護者に向けての報告が重要			
不十分	D					